

2017年11月25日

「みなとみらい線車両留置場計画に伴う調査説明会」議事要旨

1 説明会概要

日時：2017年11月25日（土）18時～19時30分

場所：神奈川近代文学館 展示館2階 中会議室

参加者：24名

- 内容：（1）開会
（2）プロジェクト推進室長挨拶
（3）調査概要説明
（4）質疑応答
（5）閉会

2 主な質疑（順不同）

●計画関連

Q1. トンネルは地表面から何mの位置か。

A1. トンネルまでの土被りは約20m～50m程度です。

Q2. トンネルの計画地は横浜高速鉄道の所有地なのか。

A2. トンネルの計画地は弊社の所有ではございません。

Q3. 留置線はこの場所でなければならないのか。公園下や道路等公共用地などの代替案はないのか。また、線形は曲げることはできないのか。

A3. 他社の車庫の賃貸借や他の場所での整備の検討も行いましたが、当社としてはこの場所がよいと判断しています。元町・中華街駅の終端側に整備することで、定時運行の確保や遅延の解消につながります。公共用地を利用することは考えており、線形については今後、調査結果を踏まえて検討していきます。

Q4. 区分地上権について、説明してほしい。

A4. トンネルの上下左右に保護層をとった部分に区分地上権を設定し、土地の利用を阻害した分について補償金を支払います。

Q5. 海水面以下に構造物を作って安全なのか。地震時に水没しないのか。

A5. 地震の影響については、今後検討しお答えしていきたいと思っております。

Q6. 総事業費はいくらなのか。

A6. 今後の検討次第ですが、約150億円程度と考えております。

●環境関連

- Q7. 地震発生時に地表面に影響はあるのか。影響が出た場合は補償されるのか。
A7. 今後、地質調査を行い、地盤の状況を確認し、地表への影響を検討します。
- Q8. トンネルの直上は、岩盤の厚さが薄くなってしまわないか。
岩盤は地表からどのくらいの深さにあるのか教えてほしい。
A8. 堀川の手前付近では、地表面から約 15m 下付近で岩盤が出現します。
トンネル上端から岩盤上端までは約 5m ほどの厚さがあります。
- Q9. 環境調査をきちんと行い、工事による影響を検討したうえで、説明すべきである。
調査の頻度についても、適当かどうかきちんと検討してほしい。
A9. 工事による影響を検討するうえで、今回調査を行わせて頂きます。

●その他

- Q10. 今回の説明会の案内はどのように行ったのか教えてほしい。
A10. 山手東部町内会での回覧および谷戸坂付近の住居へのポスティングで行いました。
ポスティングの件数は約 90 件です。
- Q11. 車庫の借地期限が 2019 年 1 月までなのに、なぜもっと早く検討しなかったのか。
A11. 数年前から先方と協議を続けてきておりましたが、検討が遅くなったのはご指摘の通りです。
- Q12. 根岸までの延伸計画はどうなったのか。
A12. 計画は以前よりあり、2016 年 4 月に公表された答申でも横浜環状鉄道の一部として位置づけられています。現在のところ、いつ事業化するかは決定していません。
- Q13. 反対意見があっても事業を進めるのか。
A13. 区分地上権の設定ができない限り事業は進められないと考えています。
調査を実施し、条件等を把握し、みなさまの不安を取り除けるよう説明を行い、ご理解を得ながら進めていければと考えています。
今回頂いたご意見等は社に持ち帰り、共有し、検討していきます。

以上